



大道第223号
平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

栃木県大田原市長 千 保 一 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別添資料のとおり提出いたしますので、よろしくお願いいたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

地方では、自家用車がなければ生活できないといっても過言ではありません。

それにもかかわらず、子どもが安全に通れる通学路の整備を含め、道路整備がまだまだ遅れている状況で、地方自治体の単独事業では限りがあります。そこで、道路特定財源は目的税であることから、すべて道路整備財源にまわし、市町村の裁量で交通安全施設や、地域振興につながる真に必要な道路整備が出来るよう配分をされたい。

○現状 ・市民は生活に密着した道路整備を強く望んでいるのが実情である。 ・中高一貫校の新設や、総合病院の移転が計画され建設に伴う道路整備が望まれている ・交通事故が多く発生している幹線で中央帯の遮断や右折レーンの確保の要望が多い ・通学路となっている道路について、歩行者優先区域を設置する。 ・橋梁や舗装の老朽化から維持管理費の増大	○課題 ・市道は、1300路線総延長950,840mからあり、改良済は643,296mと67%であり舗装率も82%とまだまだ費用がかかると、補助対象となる路線ではなく、市単独では、長い年月がかかってしまう ・中央帯の遮断により、隣接の商店への利便性が欠けてしまうため、裏通りの市道整備が急務である ・交通安全施設等改築費用に経費がかかり、維持管理については、補修対応のみのため、根本的な改良はできない
---	---

②ー2 地域の目指すべき将来像

- ・市民の日常生活の安全性、利便性の向上及び快適な生活環境の確保を図るため整備が必要である。
- ・工業団地への通勤利用者の交通渋滞緩和、緊急車両の時間短縮などを図るためバイパス等整備が必要である。
- ・近隣市町とのアクセス機能充実と、本市の観光ネットワーク道路網の整備が必要である。
- ・子供、高齢者、身体障害者を含めた誰もが安心して快適に歩ける空間を確保すると共に、連続的な整備が必要である。
- ・段差や傾斜、勾配を解消するバリアフリー化を実施し、これからの高齢化社会に向けた整備が必要である。

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
活力の向上	・国道4号土屋バイパス及び矢板北スマートIC ・国道294号小川湯津上バイパス及び黒羽地内におけるバイパス ・3・4・2号中央通り	・製造品出荷額県内第2位を誇る工業団地から東北道へのアクセスがよくなることは、従業員の通勤や運送業に多く利用されることから、流通コストの低減や生産の向上が見込まれる ・国道4号と並行しているため、観光シーズン等屈曲した佐土地内及び黒羽向町地内で渋滞し、行楽客や地元市民の生活に支障があるため、バイパスにより、経済効果の向上が見込まれる ・大田原市の基幹道路として、中心市街地の活性化を図り、同時に市街地再開発を行うことにより、地元市民の安全確保及び経済効果の向上が見込まれる	
交通安全対策や災害等危機管理の強化	・国道461号黒羽バイパス ・国道400号赤瀬地区 ・3・3・3号野崎跨線橋通り	・那須水害時に支障を来した、那珂橋を迂回するバイパスは、緊急輸送ルートの確保ができ、安全確保の向上が見込まれる ・急勾配のカーブで狭隘なため交通の難所となっている。改築により、事故の回避や通学者の安全確保の向上が見込まれる ・製造品出荷額県内第2位を誇る工業団地への通勤者の渋滞緩和や近隣2市の小中学校の通学路の安全性が確保され、しいては、工業団地の流通コストの低減や生産の向上が見込まれる	